

令和3年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大國小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。

運営に関する計画の最終評価等から、大國小学校が様々な教育活動に取り組み、丁寧に検証していることがわかった。今後も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、子どもの学習意欲が高まるような教育活動や行事等に取り組み、積極的に教育実践を積み重ねてほしい。そして、学力向上に力を入れてほしい。本校の学力については課題が大きいですが、令和3年12月に実施された経年調査の結果や、令和4年1月に実施された漢字検定の結果を考慮すると、昨年度に引き続き、学力向上の兆しが見える。今後も引き続き、課題に焦点をあて、自ら学びに向かうような取り組みを継続してほしい。

下校時の安全見守り活動等については、子どもたちとあいさつを交わしたり、声をかけてくれたりすることが、日々の見守り活動の励みとなっている。登校が遅れがちにならないように、私たちからも子どもや保護者に声をかけ、地域住民全体で見守っていきたい。令和3年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、「防災訓練」「大國盆おどり」「大國こども食堂(まんぷく)」が行えなかったが、大國集会所訪問はオンラインで実施できた。今後も学校と地域が工夫をしながら積極的に連携を深め、子どもの健やかな成長を育んでいくことが大切である。

2 年度目標(全市交通・学校園)ごとの評価

年度目標:【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標

○令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

○令和3年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を85%以上にする。

○令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。

○令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

○令和3年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合を80%以上にする。

達成状況の評価に関しては妥当であると考えている。

学校は、子どもや家庭の課題に丁寧に向き合っている。今後も引き続き、一人ひとりの子どもを大切にしながら、教育活動を進めてほしい。

不登校の子どもが学校に来ることができない状況から少しでもいい方向に行くように、浪速区役所や子ども相談センターなどの関係諸機関と連携をしながら、支援を続けてほしい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

○令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点（R2年度3年 97.5 4年 91.2 5年 99.6）を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

○令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。

○令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。

○令和3年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。

○令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「シャトルラン」の平均の記録を、前年度より向上させる。

学校の年度目標

○令和3年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

達成状況の評価に関しては妥当であると考えている。

令和元年9月から、陰山メソッドによる“グッとタイム”を、朝の時間に毎日取り組んでいる。また、日々の学習では、「できた！」という自信が積み重ねられるような指導ができるようにしている。令和3年12月に行われた大阪市学力経年調査と令和4年1月に行われた漢字検定の結果から、学力向上の兆しが見えてきている。今後も引き続き、学力向上のために継続して取り組み、粘り強く指導をお願いしたい。

外国籍や外国にルーツのある児童の日本語指導については、学校が努力していることがわかる。今後も、子どもたちのために継続的に指導してほしい。

体力向上については、引き続き、課題を見定めながら取り組みを継続してほしい。

3 今後の学校運営についての意見

○この2年間のコロナ禍に伴う3蜜回避対策で、学校教育の現場では当初の課題の全てをこなす事ができなかった事は容易に想像できる。そのため、学習面や体力面で子ども達が達成できなかった分を今後どうやってリカバリーしてゆくかが問題になろうかと思う。コロナ対策で人対人のつながりが薄れたために他人への思いやりや「あいさつ」が軽んじられてきたのではないかと、また体力不足や運動能力の低下が生じているのではないかと心配する。この間に子ども達に生じた不足分は学校教育の中だけでは十分に補えないかもしれず今後、地域行事とコラボしたり（例えば遠足など）、他校との共同授業等も必要になるのではないかと思う。その際、大国小学校の枠にとらわれずに子ども達を中心に据えて、利用できるものは地域でも役所でも各団体でも個人でも取り込んで、学校発の企画で大人達も巻き込んで頂きたいと思う。

○学力の向上については、学校が様々な取り組みを進めていることは理解できる。今後も、一人ひとりの子どもの実態や課題を把握しながら継続して取り組みを進め、学力を上げてほしい。

○地域の取り組みとしては、新型コロナウイルス感染症の影響で、「大國盆おどり」、「大國子ども食堂（まんぷく）」、地域と共同した「防災訓練」が実施できなかった。その一方で、オンラインを使って、大國集会所訪問は実施できた。今後も、工夫をしながら、子どもたちのために取り組みを進めていきたい。

○学校と保護者や子ども見守り隊、区役所や警察が連携し、通学路の安全確保に努めている。その結果、大きな事故や怪我がなく子どもが登下校することができている。

○来年度も、地域と学校が連携しながら、防災訓練や交通安全指導などの取り組みを行っていくことが、地域全体で子どもたちの安全を守っていくうえで大切である。